

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
高橋正
印刷所
(株)東北プリント



県産牛肉の学校給食への提供 ～給食風景～

もくじ

CONTENTS

令和3年度畜産施策の基本方針と主要施策……………2-4	〈畜試便り〉宮城県養豚研究会 令和2年度第1回研究集会について……………9
令和3年度畜産・酪農経営安定対策及び 畜産物価格について……………5-6	〈農業大生校生の抱負〉将来の抱負……………10
県産牛肉の学校給食への提供について……………7	〈人の動き〉……………10-12
価格安定対策事業の発動状況について……………7	
宮城県獣医師修学資金貸与者募集……………8	
〈衛生便り〉高病原性鳥インフルエンザの 発生予防対策について……………8	



**みやぎの
畜産情報
発信基地**

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



令和3年度畜産施策の基本方針と主要施策

宮城県農政部畜産課
宮城県農政部家畜防疫対策室

I 基本方針

本県の畜産は、宮城の将来ビジョンで掲げる「富県宮城の躍進」の達成に向けた重要な基幹産業と位置づけられ、令和元年の畜産の農業産出額は約736億円と県農業産出額全体の約4割を占めるなど、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給する畜産主産県としての地位を確立しています。

平成23年3月に発生した東日本大震災により、県内の畜産関連施設は甚大な被害を受けましたが、関係機関等の支援および震災復興関連事業の活用により施設の復旧が全て完了しました。また、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響については、10年を経過した現在でも生産現場に影響を与えていますが、一時保管されていた農林業系汚染廃棄物の焼却処理、すき込み処理が本格化し、肉用牛の出荷制限についても解除され、昨年3月にはガイドラインの見直し等に伴い牛肉の放射性物質検査対象が緩和されました。

一方、日米貿易協定等の発効などに伴う輸入畜産物の増加、人口減少及び高齢化に伴う担い手の減少、豚熱ワクチンの継続接種や全国的な高病原性鳥インフルエンザの発生を受けての特定家畜伝染病に対する防疫強化に加え、大雪や地震等の自然災害による被害、さらには、新型コロナウイルスの感染拡大が畜産物の消費をはじめ流通・生産にも影響を及ぼしており、本県の畜産を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。

このため、これらの状況に柔軟に対応するとともに、令和3年度は「新・宮城の将来ビジョン」、第3期「食と農の県民条例基本計画」の初年度として、市町村・JA・畜産関係団体との連携を図りながら、次の重点項目に取り組みます。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 復興完了に向けたサポート | 3 国際競争に打ち勝つ儲ける畜産経営の実現 |
| 2 安全・安心な畜産物の生産支援 | 4 畜産基盤整備による農村の振興 |

II 主要施策

1 復興完了に向けたサポート

復興完了に向けたサポートを推進するため、汚染稲わら等の適正な保管・処理を進めます。また、放射性物質検査を通じて畜産物の安全性を確保するとともに、牛肉の円滑な出荷体制を確立します。

○放射性物質影響調査事業

粗飼料や原乳等の放射性物質濃度を測定するとともに、放射能の影響を低減するための飼料作物の栽培管理等の指導を行います。

○給与自粛牧草等処理円滑化事業

放射性物質に汚染された稲わらについて、最終処分されるまでの間、適切な一時管理を実施するため、一時管理施設の保守点検や施設補修等の維持管理を実施します。

○肉用牛出荷円滑化推進事業

県産牛肉の安全性を確保するため、県内の食肉市場に出荷される検査対象牛について放射性物質検査を実施します。

2 安全・安心な畜産物の生産支援

豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図るため、各種伝染性疾患の検査の実施や飼養衛生管理基準の遵守を指導し、健康な家畜の生産と安全・安心な畜産物の安定供給を推進します。また、畜産物のGAP（農業生産工程管理）の取組や認証取得の支援により、県産畜産物に対する付加価値向上を図ります。

○家畜伝染病予防事業【家畜防疫対策室】

豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど牛・豚・鶏・馬・みつばち等の各種伝染性疾患の検査と関連する防疫対策を行い、監視伝染病の発生予防とまん延防止を図ります。

○豚熱等発生予防対策事業【家畜防疫対策室】

養豚場での豚熱発生予防を目的とした豚熱ワクチンの離乳豚への継続接種、成豚の強化接種および免疫の獲得状況を把握するための免疫付与状況確認検査を実施します。

○GAP認証取得推進事業（畜産物）

日本版畜産GAPの普及推進を図るため、制度の周知とともに指導員等の養成による推進指導体制の構築を進めます。

3 国際競争に打ち勝つ儲ける畜産経営の実現

儲ける畜産経営を実現するため、実需者を意識した畜産物の生産体制や「仙台牛」に代表される「食材王国みやぎ」の畜産物ブランドの推進、家畜改良による生産性向上や畜産新技術の開発・普及を推進し、新たな国際競争に打ち勝つ畜産経営の体質強化と経営安定を図ります。特に、地域が抱える諸課題の解決と収益性向上を図るため、畜産クラスター事業を積極的に活用し、収益性の高い儲ける畜産経営の実現を支援します。

(1) 儲ける肉用牛経営の実現

現場後代検定で脂肪交雑が日本一となった「茂福久」号に続く優秀な種雄牛造成、産肉能力や繁殖能力に優れた高能力雌牛群の整備、受精卵移植技術の活用、肉用子牛価格の安定、畜産の経営改善と技術向上を図るとともに、全共宮城大会における成果を活かした高品質な肉用牛生産、収益性の高い肉用牛経営の実現を図ります。

○第12回鹿児島全共出品対策事業

全共鹿児島大会で日本一を獲得するため、宮城大会以上の出品対策を講じることにより、仙台牛の生産基盤強化とブランド力向上を図ります。

○アグリテック活用推進事業（仙台牛食味向上、改良加速化）

国が進めるおいしさ指標に即応するため、「仙台牛」の科学分析データの蓄積を進めるとともに、遺伝子検査による遺伝子評価と受精卵移植技術を活用した和牛の改良速度の向上を図ります。

○肉用牛集団育種推進事業

繁殖農家、肥育農家の協力を得て優れた種雄牛を造成するとともに、能力の高い繁殖雌牛群の整備により、高品質のブランド牛肉「仙台牛」の生産基盤を強化します。

(2) 活力ある畜産の振興

乳用牛の生産能力を高めるための牛群検定の普及・指導強化や、ゆとりある酪農経営実現のための酪農ヘルパー事業への支援を行います。また、県独自の優良種豚の供給、輸入飼料高騰対策として自給飼料の生産拡大や家畜生産性向上等の取組により、畜産生産基盤の活性化を推進します。

○乳用牛群検定指導強化事業

乳用牛群検定指導員を対象とした研修会の開催や効果的な検定実施体制の整備及び受精卵関連技術を活用した高能力乳用牛の生産を推進します。

令和3年度畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格について

宮城県農政部畜産課

農林水産省は令和2年12月に、令和3年度の畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格を決定しました。

1 酪農関係対策

「加工原料乳生産者補給金制度」については、生産者補給金が生乳1kg当たり8円26銭、集送乳調整金が生乳1kg当たり2円59銭となります。生産者補給金と集送乳調整金の合計は生乳1kg当たり10円85銭となり、昨年度と同様になります。

なお、「加工原料乳生産者経営安定対策事業」も継続し実施されます。この対策は、加工原料乳（脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け及び生クリーム等液状乳製品向けの生乳）の取引価格が、補てん基準価格である全国の直近3年間の平均取引価格を下回った場合に、生産者と国による積立金から、その差額の8割が補てん金として交付されます。

2 肉用牛関係対策

「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」は、肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、その差額の9割が交付金として交付されます。なお、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。ただし、令和2年4月から生産者負担金の納付猶予（実質免除）を行っているため、納付猶予牛及び積立金が払底した県の出荷牛では国費分（4分の3）を交付しています。生産者負担金の納付再開についてですが、農畜産業振興機構から公表される枝肉卸売価格が3ヶ月連続で2,300円/kg（税込）を超えた場合、準備期間を経て納付が再開されます。最短で6月に納付が再開され、その場合は、5月上旬に生産者負担金単価が農畜産業振興機構から公表される予定となっております。

また、「肉用子牛生産者補給金制度」も継続し実施されます。この制度は、肉用子牛（黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種、乳用種、交雑種）の四半期毎の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合に、生産者に対して生産者補給金を交付し、さらに合理化目標価格を下回った場合は、下回った額の9/10が補給金として交付されます。

3 養豚関係対策

「肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン）」は、肉豚1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合（四半期毎）、その差額の9割が交付金として交付されます。また、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬（盛岡・水沢開催）4・5月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
4月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
				水	沢						水	沢						水	沢						水	沢								
5月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月			
		水	沢		水	沢					水	沢						水	沢						水	沢							水	沢

※開催期間中の重賞レース

- ・4/4(日) 第46回スプリングカップ
- ・4/11(日) 第46回赤松杯
- ・4/18(日) 第46回あやめ賞
- ・5/2(日) 第41回ダイヤモンドカップ
- ・5/9(日) 第46回シアンモア記念
- ・5/16(日) 第21回留守杯日高賞
- ・5/23(日) 第22回あすなろ賞

4 採卵養鶏関係対策

「鶏卵生産者経営安定対策事業」は、鶏卵の標準取引価格（月毎）が補てん基準価格を下回った場合、経営規模に拘わらず、生産者と国による積立金からその差額（補てん基準価格と安定基準価格の差額を上限とする）の9割が補てんされます。さらに「成鶏更新・空舎延長事業」では、鶏卵の標準取引価格（日毎）が安定基準価格を下回る日の30日前から、安定基準価格を上回る日の前日まで（ただし、安定基準価格を上回る日の前日までに、食鳥処理場に予約されている場合は、安定基準価格を上回った日から起算して30日後まで）に、更新のために成鶏を出荷し、その後60日～90日未満の空舎期間を設ける取組を行った場合に、成鶏1羽当たり210円の奨励金、10万羽未満の小規模生産者については、310円の奨励金が交付されます。また、90日～120日未満の空舎期間を設ける取組を行った場合に成鶏1羽当たり420円の奨励金、10万羽未満の小規模生産者については、620円の奨励金が交付されます。

5 令和3年度畜産物価格

(1) 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の単価並びに総交付対象数量

区 分	令和2年度	令和3年度
総交付対象数量	345万トン	345万トン
生産者補給金の単価	8.31円/kg	8.26円/kg
集送乳調整金の単価	2.54円/kg	2.59円/kg

(2) 肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

(単位：円/頭)

区 分		令和2年度	令和3年度
保証基準 価 格	黒毛和種	541,000	541,000
	褐毛和種	498,000	498,000
	その他の肉専用種	320,000	320,000
	乳用種	164,000	164,000
	交雑種	274,000	274,000
合 理 化 目 標 価 格	黒毛和種	429,000	429,000
	褐毛和種	395,000	395,000
	その他の肉専用種	253,000	253,000
	乳用種	110,000	110,000
	交雑種	216,000	216,000

(3) 鶏卵の補てん基準価格及び安定基準価格

(単位：円/kg)

区 分	令和2年度	令和3年度
補てん基準価格	183	181
安定基準価格	161	159

(企画管理班)

県産牛肉の学校給食への提供について

宮城県農政部畜産課

新型コロナウイルス感染症の影響によるインバウンドや外食需要の減少により、消費の落ち込みや価格の下落といった影響が出ていた県産牛肉の消費拡大を図るため、今年度7月より「県産牛肉学校給食提供支援事業」を実施しました。

県内の小学校、中学校、特別支援学校等を対象に、給食食材として県産牛肉を提供しました（1人あたり上限100g、複数回提供可）。食肉事業者の皆様をはじめ市町村や関係機関の皆様にご協力いただき、県内全市町村において牛肉提供を実施することが出来ました。その結果、提供延べ人数は約66万人、提供量は約30tにのびりました。提供にあたっては、ステーキや牛丼、すき焼き、ビーフシチューといった普段の給食ではほとんど提供されないメニューに児童や生徒も喜んでいました。

あわせて、将来の主たる消費者となる児童や生徒に対し、牛肉を食べてもらうだけでなく、ランチオンマットやペーパークラフトといった食育教材の配布を行うことにより、全国に誇れる地元銘柄牛である「仙台牛」や県産牛肉の魅力を伝え、食育への理解を深めてもらいました。

給食提供が行われた学校からは、「こんなおいしいお肉食べたことがない!」「早く次の牛肉の給食を食べたい!」「牛肉を食べるまでの生産者の大変さが分かった。」などの声が聞かれ、コロナ禍で行事の中止や制約の多い中、県産牛肉を利用した給食を通じ、楽しみながら、牛肉への理解を深めてくれました。



給食の一例

(企画管理班 四ノ宮徹)

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

(単位：円)

販売月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和2年10月	(48,457.95円)	(127,468.4円)	(33,969.2円)
（概算払）			
精算払	51,457.95円	131,468.4円	37,969.2円
11月	(0.00円)	(75,365.6円)	(34,144.7円)
（概算払）			
精算払	0.00円	79,365.6円	38,144.7円
12月	0.00円	29,124.9円	38,791.8円
精算払			
令和3年1月	(0.00円)	(19,405.4円)	(39,958.7円)
（概算払）			

※令和2年5月以降の肉専用種は、積立金不足により国費分のみ（3/4相当額）の支払いとなります。

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）の交付金単価 令和2年度第1～3四半期 交付なし

宮城県獣医師修学資金貸与者募集

宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班

【修学資金の内容】

- 1 貸与対象者：獣医学を履修する課程に在学する5年生で卒業後宮城県（家畜保健衛生所）に獣医師として勤務しようとする方
- 2 募集人員：令和3年度分1名（5年生のみ対象）
- 3 貸与額：国立大学生 10万円/月、私立大学生 18万円/月
- 4 提出書類：①申請書 ②学長の推薦書 ③健康診断書 ④戸籍謄本 ⑤学業成績証明書
⑥保護者等の収入を証明する書類
（①、②の書類は、（一社）宮城県畜産協会のホームページよりダウンロードできます）
- 5 提出期間：令和3年4月1日（木）から7月23日（金）まで（当日消印有効）
- 6 選考日時・場所：令和3年8月6日（金）自治会館200会議室（詳細はHP等）
- 7 選考方法：書類審査、小論文及び面接により貸与者を決定し通知します。
- 8 返還免除：県職員採用試験に合格し、大学卒業後直ちに獣医師資格を取得し、宮城県職員（家畜保健衛生所）として、貸与額によって一定期間以上勤務した場合は、修学資金全額の返還が免除されます。
※10万円/月：貸与期間の2分の3以上 18万円/月：貸与期間の3分の5以上
- 9 返還措置：貸与資金は規程に基づき、返還措置が発生する場合があります。
※貸与期間は、大学5年生の6月～6年生の3月までの22ヶ月間です。

※希望者は先ず、お電話で内容をご確認ください。

【採用・勤務条件等に関する問い合わせ先】

宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班 〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1
TEL 022-211-2854 FAX 022-211-2859 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tikusanka>

【修学資金に関する問い合わせ先・申請書類提出先】

一般社団法人宮城県畜産協会 総務課 〒983-0832 宮城県仙台市宮城野区安養寺3-11-24
TEL 022-298-8471 FAX 022-293-2311 [http://miyagi.lin.gr.jp/vetshuugakusikin/index\(vet\).htm](http://miyagi.lin.gr.jp/vetshuugakusikin/index(vet).htm)

〈衛生便り〉

高病原性鳥インフルエンザの発生予防対策について

東部地方振興事務所 畜産振興部

高病原性鳥インフルエンザは伝染力が強く、死亡率の高い伝染病のため特定家畜伝染病に指定されており、発生すると養鶏産業に及ぼす影響が大きいことから、農場では飼養衛生管理を徹底して原因となるウイルスの侵入防止に努める必要があります。

感染の要因として、ウイルスを持った渡り鳥の糞便等による周辺環境の汚染が考えられますが、今季は北海道から鹿児島まで全国の18道県55事例（R3.2.22現在：環境省）で野鳥からウイルスが検出され、2月には県内の死亡野鳥からもウイルスが確認されていますので、油断せずに本病の発生防止に向けて下記の予防対策の継続的な対応をお願いします。

○発生状況

今季は17県51事例で発生が確認され、これまでに74農場1施設で約979万羽が処分されるなど（R3.2.26現在：農水省）、近年にない大きな流行となっています。

○症状等

感染した鶏は元気が消失し、肉冠のチアノーゼ（青紫色に変化）、顔面の浮腫性腫脹（むくみ・はれ）、突然死などの症状を示します。今季の特徴として、感染から死亡までの期間が長い傾向にあり、全ての症状が見られるわけではないので、死亡羽数の増加、産卵率の低下など、異状を確認したら最寄りの家畜保健衛生所・畜産振興部にご連絡ください。

○予防対策

(1) 野鳥・野生動物による侵入防止対策

- ・防鳥ネットを設置し、こまめに点検し破損箇所を見つけたら直ぐに補修しましょう。
- ・ネズミ等の侵入防止対策や定期的な駆除に努めましょう。
- ・鶏舎周辺、農場敷地周縁及び農場内の道路に消石灰を散布しましょう。
- ・鶏舎内外の清掃や周辺の草刈り等で、ネズミや野鳥の隠れる場所をなくしましょう。

(2) 人・車両等による侵入防疫対策

- ・外来者は最小限とし、衛生管理区域及び鶏舎ごとに立入る車両の消毒、立入る人の手指消毒、鶏舎ごとに専用の衣服や靴を配置して使用しましょう。

(3) 給水・飼料の汚染による侵入防疫対策

- ・飼料タンク付近は清潔に保ち、新鮮な水道水、または消毒した水を使用しましょう。

(4) 鶏糞の処理

- ・鶏糞は農場内で適切な発酵処理（中心温度70℃以上）を行いましょう。

（畜産振興班 柴崎卓也）

〈畜試便り〉

宮城県養豚研究会 令和2年度第1回研究集会について

宮城県畜産試験場

令和3年3月5日、宮城県養豚研究会（事務局：宮城県畜産試験場）主催による令和2年度第1回研究集会がZoomミーティングによるリモートにより開催されました。本研究会は、養豚に関する研究の促進並びに技術の普及を図り、養豚の振興に寄与することを目的として活動し、毎年2回の研究集会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2回続けて開催を見送っていましたが、この度、養豚研究会会長の宮城大学須田義人教授の計らいで、宮城大学サテライトキャンパスを利用させていただき、リモートでの開催が実現しました。

今回の研究集会は、テーマとして「これからの豚熱防疫対策について考える」を取り上げ、「野生動物侵入対策」、「豚熱ワクチン」についての最新情報を取り入れ、ワクチン接種という新たなステージに入った今、本県養豚農家及び関係機関はいかに豚熱と対峙していくべきかについて考えるきっかけを提示しました。講師2名からご講演いただきました。

初めに、野生動物の行動・生態に詳しい江口祐輔氏（おおち山くじら研究所所長 兼 麻布大学獣医学部動物応用科学科動物行動管理学研究室客員教授）に「イノシシから農場を守る手法」と題してご講演いただきました。イノシシ行動学という、しっかりした科学的な根拠に基づいた侵入防止対策の提言は、一つ一つ納得させてもらえるもので、動画や写真を多用した説明手法と相まって、非常に印象深い講演でした。江口先生のイノシシに対する愛情が端々に感じられる講演でもあり、イノシシの学習能力の高さを知らされました。今後は、単純にイノシシを捕獲し殺戮するのではなく、我々人間の側の問題・課題を解決するという方向で農場への侵入防止策を検討するべきであるとの示唆に富むお話でした。



次に、山田治氏（宮城県畜産課衛生安全班技術補佐）から「豚熱ワクチンについて」と題してご講演いただきました。まず、最近の豚熱発生例の紹介があり、これらすべてがワクチン接種区域での発生ということで、ワクチンを接種したから大丈夫ということではないことを思い知らされました。今後継続接種という状況下で、免疫付与をどううまくコントロールしていくかが難しい問題であり、母豚ごとに管理することが理想だが、それは現実的には無理であり、さらに家畜防疫員の業務逼迫状況も考え合わせると、接種日を固定した上で、推定される免疫空白期間の豚舎・豚房のバイオセキュリティをアップしていくことが大切とのことでした。

その後、チャットで送信されていた質問事項に対して、お二人から回答をいただき総合討論を終えました。初めてのリモートでの開催でしたが皆様方のご協力の下、無事終了することができました。

（種豚家きん部 吉野淳良）

〈農業大学校生の抱負〉

将来の抱負

宮城県農業大学校畜産学部 2学年 村田 巧



私の祖父の家では現在肥育牛14頭と水稲11haを経営している複合経営の農家です。10年前の3月11日、東日本大震災で祖父のいる亶理町は被災しました。祖父の家は沿岸部にあったため牛舎は津波に飲まれ田んぼは全て塩害に遭い、海岸から約3キロにあった祖父の家は1mほど浸水しました。不幸中の幸いで、津波は被りましたが牛舎は流されず牛も全頭無事でした。津波から助かった牛を育てる祖父を手伝ううちに農業、畜産に興味を持ち、県内の農業高校に進学することを決めました。高校では畜産を専攻し、畜産を始め農業の基礎的な知識を学びました。さらに和牛について専門的かつ、実践的に学びたいと思い宮城県農業大学校畜産学部に進学しました。

一年生で先進農業体験学習という約1ヶ月間農家に研修に行く機会がありました。私は大郷町にある繁殖牛農家の村田雄太郎さんのお宅へ研修に行きました。研修では分娩介助や給餌などの飼養管理を中心に座学では学べない体験をさせていただきました。又、経営して行く上での精神や人との繋がり、地域での循環型農業の大切さを村田さんから教わりました。研修期間外でも卒業論文や進路への相談相手になってくださり充実した研修になりました。

私は農業大学校で学ぶ二年間で「資格取得」と「和牛の飼養管理のノウハウを学ぶ」ことを成し遂げたいです。資格取得では家畜人工授精師や二級認定牛削蹄師の取得し、和牛の飼養管理のノウハウを学ぶことで一頭一頭の牛の能力を引き出し、より高値で売れる牛を生産したいと思っています。将来は農業大学校で学んだ経験を活かし祖父の農家を継ぎ和牛一貫経営をしたいと考えています。卒業後、簡易牛舎を新築し、繁殖雌牛を5頭導入、5年で10頭規模に拡大することを目標にしています。今年度からは宮城県畜産試験場での実習が始まります。学校で学んだことを経営に役立て、宮城の農業の担い手として将来地域に貢献できるように勉学に励みたいと思います。

〈人の動き〉

宮城県

退職 (令和3年3月31日付)

- (農林水産省へ) 農政部長
農政部長次長 (技術担当)
技術参事兼畜産課長
仙台家畜保健衛生所長兼仙台地方振興事務所畜産振興部長
北部家畜保健衛生所長兼北部地方振興事務所畜産振興部長
畜産試験場草地飼料部長
北部家畜保健衛生所

- 佐藤 夏人
千葉 伸裕
大場 実
大久 範幸
高田 直和
漆山 昌芳
中村健太郎

令和3年4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). Lists personnel changes across various departments like 農政部長, 畜産課長, etc.

新	旧	氏名
家畜防疫対策室	東部家畜保健衛生所	北 勇一朗
家畜防疫対策室	大河原家畜保健衛生所	佐藤 浩庸
大河原家畜保健衛生所長兼大河原地方振興事務所畜産振興部長	東部家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当)	清水ゆう子
大河原家畜保健衛生所技術副参事兼総括次長	仙台家畜保健衛生所技術次長 (監視伝染病対策担当)	小寺 文
大河原家畜保健衛生所技術主幹 (班長)	畜産課技術主幹 (副班長)	加藤 里子
大河原家畜保健衛生所技術主任主査 (班長) 兼大河原地方振興事務所地方振興部企画員	農業大学校主任主査	齊藤 陽介
大河原家畜保健衛生所技術主任主査	畜産課技術主査	曾地雄一郎
大河原家畜保健衛生所	(新規採用)	岸田 竜馬
仙台家畜保健衛生所長兼仙台地方振興事務所畜産振興部長	畜産課監視伝染病対策専門監	西 清志
仙台家畜保健衛生所技術副参事兼総括次長	仙台家畜保健衛生所次長 (総括担当)	高橋 幸治
仙台家畜保健衛生所総括技術次長 (監視伝染病対策担当)	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術次長 (班長) 兼地方振興部企画員 兼北部家畜保健衛生所	大越 啓司
仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台地方振興事務所地方振興部企画員	仙台家畜保健衛生所技術主幹 (副班長)	柴田 知也
仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長)	北部家畜保健衛生所技術主幹 (班長)	竹田百合子
仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長)	畜産試験場主任研究員	植田 郁恵
仙台家畜保健衛生所技術主幹	仙台家畜保健衛生所主任主査	千葉 直幸
仙台家畜保健衛生所技術主任主査	東部家畜保健衛生所主任主査 (副班長)	熊田 修之
仙台家畜保健衛生所技術主任主査 (副班長)	仙台家畜保健衛生所主任主査 (副班長)	高野 泰司
仙台家畜保健衛生所技術主任主査	仙台家畜保健衛生所技術主査	結城 瑞希
仙台家畜保健衛生所	北部家畜保健衛生所	塩原 綾早
北部家畜保健衛生所長兼北部地方振興事務所畜産振興部長	東部地方振興事務所畜産振興部長兼東部家畜保健衛生所次長	早坂 駿哉
北部家畜保健衛生所技術副参事兼総括次長	東部地方振興事務所畜産振興部次長 (総括担当)	中條 満
北部家畜保健衛生所総括技術次長 (監視伝染病対策担当)	北部家畜保健衛生所技術次長 (監視伝染病対策担当)	阿部 公一
北部家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼北部地方振興事務所地方振興部企画員	北部家畜保健衛生所技術主幹 (副班長)	平子 智子
北部家畜保健衛生所技術次長 (班長)	北部家畜保健衛生所技術主幹 (班長)	真鍋 智
北部家畜保健衛生所技術主任主査	北部地方振興事務所主任主査	大沼 篤
北部家畜保健衛生所	(新規採用)	今井 勇志
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部長兼北部家畜保健衛生所次長	農業振興課技術副参事兼課長補佐 (総括担当)	千葉 啓嗣
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部総括次長	畜産課技術補佐 (班長)	山田 治
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術主幹 (経営支援担当)	北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興部技術次長 (経営支援担当)	鹿野 裕志
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術主幹 (班長) 兼地方振興部企画員	畜産課主任主査 (副班長)	矢島 りさ
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部	(新規採用)	小宮 亮太
東部家畜保健衛生所総括次長	仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台地方振興事務所地方振興部企画員	山田 智子
東部家畜保健衛生所技術次長 (班長)	大河原家畜保健衛生所技術次長 (班長)	網代 隆
東部家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼東部地方振興事務所登米地域事務所地方振興部企画員	東部地方振興事務所農業振興部主任主査 (副班長)	佐藤 元道
東部家畜保健衛生所技術主任主査	北部地方振興事務所農業振興部農業普及指導専門監	大友 一博
東部家畜保健衛生所技術主査	東部保健福祉事務所技術主査 (副班長)	高橋 巧
東部家畜保健衛生所技術主査	北部家畜保健衛生所長	高田 直和
東部家畜保健衛生所	畜産試験場兼食肉衛生検査所	岡 希
東部地方振興事務所畜産振興部長	北部家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当)	天野 祐敏
東部地方振興事務所畜産振興部総括次長	東部家畜保健衛生所技術次長 (班長)	國井 洋
畜産試験場長兼種豚家きん部長	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部長兼北部家畜保健衛生所次長	氏家 哲
畜産試験場草地飼料部長	北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術副参事兼次長 (総括担当)	石川 知浩
畜産試験場副参事兼総括次長兼次長 (班長) 兼農業大学校総括次長	公立学校事務室長	千葉 茂
畜産試験場主任主査兼農業大学校	畜産試験場主査兼農業大学校	大柳麻衣子
畜産試験場副主任研究員	畜産試験場研究員	佐沢 公子
畜産試験場副主任研究員	畜産試験場研究員	渡邊 智
畜産試験場研究員兼食肉衛生検査所	仙台家畜保健衛生所	松尾 賢吾
畜産試験場	気仙沼地方振興事務所水産漁港部	船橋 美乃
畜産試験場	東部家畜保健衛生所	富樫 哲也
畜産試験場	(新規採用)	佐々木孔亮
農業大学校畜産学部長	東部家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼東部地方振興事務所登米地域事務所地方振興部企画員	佐藤 俊益
農業大学校畜産学部技術主幹	畜産課技術主幹 (副班長)	阿部 忠宏
大河原地方振興事務所長	農政部次長	齋藤 巖
北部地方振興事務所農業振興部総括技術次長兼大崎農業改良普及センター	畜産課技術補佐 (班長)	石黒 裕敏
北部地方振興事務所農業振興部技術主査	北部家畜保健衛生所栗原地域事務所畜産振興部	森田 昌孝
東部地方振興事務所登米地域事務所長	農政部次長 (技術担当)	江畑 正徳
東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部長兼登米農業改良普及センター所長	畜産課技術副参事兼課長補佐 (総括担当)	鈴木 秀彦
東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部総括技術次長兼登米農業改良普及センター	畜産課技術補佐 (班長)	武田 正寛
気仙沼地方振興事務所農業振興部総括技術次長兼気仙沼農業改良普及センター	北部家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼北部地方振興事務所地方振興部企画員	安達 芳則
総務部財政課	畜産課	岡部 恒
復興・危機管理部原子力安全対策課	畜産試験場兼農業大学校	高橋 達哉
保健福祉部新型コロナウイルス調整室主幹 (班長)	畜産課主幹 (副班長)	石川 洋子
農業政策室	畜産試験場	青沼 達也
栗原地方ダム総合事務所副参事兼総括次長	畜産試験場副参事兼総括次長兼次長 (班長) 兼農業大学校総括次長	佐々木啓樹

宮城県農業共済組合 (NOSAI宮城)

定年退職 (令和3年3月31日付) 本所家畜部長
 県北家畜診療センター所長

古内 稔悦
 石川 正光

令和3年4月1日付

新	旧	氏名
本所第二事業部次長	本所家畜部家畜診療課長	高橋 孝幸
県南家畜診療センター所長兼庶務課長	県南家畜診療センター所長代行兼庶務課長	河野 充彦
県南家畜診療センター損防課技師	県北家畜診療センター損防課技師	近藤 大祐
中央家畜診療センター損防課長	県北家畜診療センター損防課長	八島 正
県北家畜診療センター所長	家畜診療研修所所長代行兼庶務課長	村山 勇雄
県北家畜診療センター損防課長	中央家畜診療センター損防課長	福田 達也
県北家畜診療センター診療課係長	県北家畜診療センター診療課技師	高橋 孝徳
県北家畜診療センター損防課技師	県南家畜診療センター損防課技師	前道 一貴
県北家畜診療センター診療課専門技術員	(再雇用)	石川 正光
家畜診療研修所所長代行兼庶務課長兼損防指導課長	家畜診療研修所損防指導課長	松田 敬一
家畜診療研修所損防指導課係長	県北家畜診療センター損防課係長	及川 伸代
家畜診療研修所診療指導課専門技術員	県南家畜診療センター診療課専門技術員	熊谷 克
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	天野 真衣
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	大澤 里菜
家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	徳永 朱里

公益社団法人 みやぎ農業振興公社

退職 (令和3年3月31日付) 畜産振興部岩出山牧場技術主査
 畜産振興部畜産振興班主査

庄司 功
 佐々木和徳

令和3年4月1日付

新	旧	氏名
畜産振興部参事 (畜産振興班勤務)	農村整備部参事 (農地整備班勤務)	土生 良樹
畜産振興部副参事 (坪沼農場勤務)	原種苗部副参事 (農産園芸班勤務)	赤間 俊
畜産振興部畜産振興班技術主査	畜産振興部畜産振興班技師	庄子 修平
畜産振興部白石牧場技師	畜産振興部岩出山牧場技師	吉田 匠
畜産振興部白石牧場坪沼農場主任主査 (副業務長)	畜産振興部白石牧場坪沼農場技術主査 (副業務長)	関口 直樹

一般社団法人 宮城県畜産協会

定年退職 (令和3年3月31日付) 総務課長
 仙南事業所長
 価格安定課長
 価格安定課課長補佐
 家畜衛生課主幹
 経営支援課技師

大場 静子
 大宮 勝廣
 島貫 稔
 北谷せつよ
 三品 清美
 武田 滉太

令和3年4月1日付

新	旧	氏名
事務局次長兼価格安定課長	事務局次長	松田 悦子
参事兼家畜衛生課長	家畜衛生課長	伊藤 敦
総務課長	総務課主幹	山崎 哲
総務課課長補佐兼価格安定課	(再雇用)	島貫 稔
総務課主任主査	家畜改良課主任主査	渡邊 恵子
総務課主事	嘱託職員	高橋 理恵
経営支援課課長補佐	経営支援課技術主幹	庄司 清文
価格安定課技術主幹	価格安定課技術主査	亀井 和也
家畜衛生課主査	(再雇用)	三品 清美
家畜改良課技師	中央事業所技師	柴田 夏季
仙南事業所長	(再雇用)	大宮 勝廣
中央事業所主査	(再雇用)	北谷せつよ